



西村クリニック便り 第109号

新年あけましておめでとうございます



発行元
西村クリニック
四條畷市楠公 1-14-6
072-862-3001

「雲外蒼天」

さて2024年が始まりました。皆様方、正月はいかがお過ごしされたでしょうか。正月と言えば独楽（こま）ですが、今月は独楽ではなく駒の話をしましょう。将棋は相手の王様を取るゲームであります。駒をよく見ると片方は玉将になっているのを将棋を指す人は知っていると思いますが、王将二つだとややこしいので片方に点を加えて玉将にしたと多くの方は思っている様に思われますが、これは実は逆で元々は両方とも玉将だったので、将棋の起源は古代インドのボードゲーム「チャトランカ」とされていますが、それがタイに伝わって生まれた「マークルック」が日本に伝わり、現在の将棋へと発展していきました。



「チャトランカ」は王を取り合うゲームでしたが、「マークルック」は財宝を取り合うゲームで、将棋はその影響を受けて宝石を意味する玉を付けた「玉将」をはじめ、「金将」や「銀将」などいくつかの駒が財宝に例えて名付けられました。

ところが戦国時代豊臣秀吉が争うべきは宝石でなく王様、そして王様は一人で良いとって片方を玉将に変えさせたとの事があります。近年の将棋ブームで昨年流行語大賞のトップ⑩に入った「観る将」という言葉。これは将棋は指せないが、観る方が好きな人を言いますが、この「観る将」が増えたのは藤井聡太さんの功績が大きいと思います。昨年永瀬さんとの激闘を制し、将棋の八大タイトルを完全制覇した藤井八冠。藤井さんは八冠となった後岸田首相から内閣総理大臣顕彰を受けましたが、その返礼品として岸田首相に将棋盤を贈りましたが、その盤のカバーには「雲外蒼天（うんかいそうてん）」と書かれていたそうです。藤井八冠は強くなる事で盤上において今まで見えてなかった新しい景色が見えてくる、そこを目指してこれからもやっていくという意味を込めてこの言葉を使ったそうです。

この「雲外蒼天」の雲をさまざまな障害や悩みを考えれば次の様な解釈もできる様です。即ちさまざまな試練を努力して乗り越えれば快ち良い青空が望めるというものです。

新しい年が明けましたが、今年もいい事ばかりではなく乗り越えなければならない試練もたくさんあると思いますが「雲外蒼天」という言葉を胸に頑張っていこうと思う次第であります。

There is always light behind the clouds.



診察が大変に立て込んでおります。必ず“診察券”は毎回ご持参ください。また診察券のご持参のない場合は診察の順番を後にさせていただきます。また診察券のご持参を2回続けてされない場合は50円にて診察券の再発行を自動的にさせていただきます。「どうしても診察券を忘れてしまうです(;ω^)」とおっしゃる方については当院にて診察券番号を控えさせていただきます。「診察券番号を控えてください」と受付までお申し出ください♪

寒い日が続いています。暖かい場所から風呂場などの寒い場所に移動したとき血圧が急変動をします。体調不良をお越し立ち眩みや眩暈、さらに浴槽で溺れるなどたくさんの緊急事態が起こります。食後すぐの入浴もさけ（2時間は開けてください）熱い湯舟（42度以上）にも入らないように注意しましょう（湯舟は40度以下で浸かるのも長くとも10分以内で済ませてください）入浴前には風呂の蓋をあけたりシャワーなどで浴室を暖めたり脱衣所にも暖房器具などを置いて暖めるなどの工夫をし温度差がないようにしましょう。もし湯舟で体調が悪くなら浴槽の栓を抜き水を抜き家族を呼ぶなどを行いましょう。楽しく安全なお正月をお過ごしください♪

編集後記

「おっと体重がまた増えた(+,+)」と
思っているそこのあなた
院長と同じですよ〜♪